

令和8年度(2026年度)

# カリキュラム編成書

音響制作科

東北電子専門学校

# 学科概要書

## 音響制作科

### 育成人材像

- ① 舞台スタッフ、コンサートスタッフとして必要な舞台音響、舞台照明の総合的な専門知識を持ったオペレーションや管理ができる。
- ② 音楽や歌唱に限らず、放送、映像、映画等、多様なメディアに対応できる技術と創造性を身に付けてレコーディングエンジニアとして業務を遂行することができる。
- ③ 多くの音響関連専門機器の操作技能を身に付け、MAエンジニアとして整音作業を円滑に遂行することができる。

### 身に付ける能力

- ① 舞台照明、舞台音響の基本から応用まで学び、舞台機構調整技能検定の合格に必要な知識と技能を身に付け、ホール管理スタッフ、PAスタッフとして実務に活用できる。
- ② レコーディングの基本から応用まで学び、サウンドレコーディング技術認定試験およびPro Tools技術認定試験合格に必要な知識と技能を身に付け、レコーディングエンジニアとして実務に活用できる。
- ③ 映像音響処理技術者技能認定資格試験合格に必要な知識を身に付け、MAスタッフとして実務に活用できる。

### 教育課程編成方針

- ① 豊かな教養と社会常識を身に付けるために、「就職対策」を各学年に配置する。
- ② 1年次は音響分野において必要な音響、照明およびレコーディングの基礎的知識、PA機器、DAWアプリケーションの基本的操作能力を身に付けるための専門科目を配置する。
- ③ 1年次は通年で企業と連携した実習科目を配置する。
- ④ 2年次前期は音響分野において必要な基礎的知識を身に付けるための専門科目を配置する。
- ⑤ 2年次は音響分野において即戦力として活躍できる実践力を身に付けるための専門科目として、1年次に身に付けた知識と能力を高める演習を配置する。

### 授業実施の方針

- ① キャリア教育科目である「就職対策」はオンラインコンテンツを利用した一般常識の学修、履歴書・エントリーシートの記述指導、面接訓練等の実践トレーニングとする。
- ② 音響分野における知識修得を目的とした科目は講義形式で行うことを基本とし、知識の定着のための演習はグループワーク形式で行う。
- ③ 音響業界で即戦力として活躍できる実践力を身に付けるため、PA機器、照明機器およびDAWアプリケーションの操作技能を修得するための専門科目は、実習形式で行う。なお、作品制作科目においては年間3～4課題程度の作品を作成し、設置・設定確認を主とする科目においては、主要バリエーションを目視および聴音で確認する。
- ④ 実践力を身に付けるために実施する企業と連携した授業は、PA機器の配置および操作のバリエーションを学内ホールに学内のPA機器を用いて疑似再現することで身に付ける。

### 目標資格

- ・舞台機構調整技能検定3級・2級
- ・サウンドレコーディング技術認定試験
- ・ProTools技術認定試験
- ・映像音響処理技術者技能認定資格試験

### 目指す職種

- ・コンサートスタッフ(音響・照明) ・TV音声スタッフ ・MAミキサー

### 企業連携実習

- ・株式会社 東北共立

### 業界や企業との提携／外部イベント／コンテスト等

- ・とっておきの音楽祭 音響アシスタント参加(校外実習)
- ・定禅寺ストリートジャズフェスティバル音響アシスタント参加(校外実習)
- ・仙台ゴスペル・フェスティバル 音響アシスタント参加(校外実習)
- ・インターンシップ(東北映像製作社協会主催)

## 科目関連図

### 音響制作科

科目 区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
一般 科目	就職対策ⅠA	就職対策ⅠB	就職対策ⅡA	就職対策ⅡB				
専門 科目	音響技術A	音響技術B						
	照明技術A	照明技術B	照明実習					
	PA実習ⅠA	PA実習ⅠB	PA実習Ⅱ					
	PROTOOLS実習ⅠA	PROTOOLS実習ⅠB	PROTOOLS実習ⅡA	PROTOOLS実習ⅡB				
	MA実習ⅠA	MA実習ⅠB	MA実習ⅡA	MA実習ⅡB				
	レコーディング実習ⅠA	レコーディング実習ⅠB	レコーディング実習ⅡA	レコーディング実習ⅡB				
				舞台技術機器 メンテナンス実習				
	検定対策Ⅰ		検定対策Ⅱ					
	ビジネススキルトレーニング Ⅰ		ビジネススキルトレーニング ⅡA	ビジネススキルトレーニング ⅡB				
		ビジネスワークショップ Ⅰ		ビジネスワークショップ Ⅱ				
			卒業研究	卒業制作				

音響制作科

1年

科目名	就職対策 I A				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的/概要	<p>目的: 就職活動において、各種審査・試験(書類審査、筆記試験、面接試験等)に対応できる力を身につけることにより、希望する企業への内定を獲得する。</p> <p>概要: テキストと動画視聴、ワークブックにより、書類の作成や面接対策など、就職活動で必要とされる対応力を身につける。またWebコンテンツを使用し、一般常識や適性試験対策を中心に就職活動における筆記試験対策を行う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動に必要な書類、特に履歴書をしっかりと完成させることができる。</li> <li>・就職活動を前提に、社会人としての常識やモラル、立ち居振る舞いを身につける。</li> <li>・面接試験においては物おじせず、自分の考えを相手に伝えることができる。</li> <li>・一般常識やSPIを繰り返すことにより、スキルの向上を図る。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト: ビジュアルで学ぶシリーズ これだけは知っておきたい! 面接対策&amp;ビジネスマナー(ウイネット)(ワークブック付属)</li> <li>・Webコンテンツ: ラインズドリルベーシック、ラインズSPI(ラインズ社)</li> </ul>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動は卒業後の進路を決める重要な活動であり、本授業はその礎を築くものである。就職活動を主体的に捉え、積極的に取り組むこと。</li> <li>・ラインズは授業以外の時間も使用し、積極的に進めること。</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般常識実力試験…80% ・課題小テスト…10% ・授業に取り組む姿勢…10% などを中心に総合的に評価する。</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

	テキスト・ワークブック	ラインズ
第1週	科目オリエンテーション	ラインズベーシック 数学 1.数の体系1
第2週	I. 社会人になるとは①	ラインズベーシック 数学 2.数の体系2
第3週	I. 社会人になるとは②	ラインズベーシック 数学 3.単位/組み合わせ・確率
第4週	II. 基本動作	ラインズベーシック 数学 4.量の関係・文字式・関数
第5週	III. 言葉遣い①	ラインズベーシック 数学 5.累乗・2次方程式
第6週	III. 言葉遣い②	ラインズベーシック 数学 6.図形
第7週	IV. 電話対応①	ラインズベーシック 数学 総まとめ
第8週	IV. 電話対応②/V. インターネット・電子メール利用のマナー	中間試験
第9週	I. 面接の目的①	ラインズSPI SPI解答のテクニック 非言語(基礎)①
第10週	I. 面接の目的②	ラインズSPI SPI解答のテクニック 非言語(基礎)②
第11週	II. 自己分析①	ラインズSPI SPI演習問題 非言語(基礎)①
第12週	II. 自己分析②	ラインズSPI SPI演習問題 非言語(基礎)②
第13週	就職支援プログラム①	ラインズSPI SPI演習問題 非言語(基礎)③
第14週	就職支援プログラム②	ラインズSPI SPI演習問題 非言語(基礎) 総まとめ
第15週	前期まとめ/期末試験	期末試験
	<p>※授業時間に、付属のワークブックの記入や動画の視聴も一部含む。</p> <p>※就職支援プログラムの実施時期は前後する場合がある。</p>	

科目名	就職対策 I B				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的/概要	<p>目的: 就職活動において、各種審査・試験(書類審査、筆記試験、面接試験等)に対応できる力を身につけることにより、希望する企業への内定を獲得する。</p> <p>概要: テキストと動画視聴、ワークブックにより、書類の作成や面接対策など、就職活動で必要とされる対応力を身につける。またWebコンテンツを使用し、一般常識や適性試験対策を中心に就職活動における筆記試験対策を行う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動に必要な書類、特に履歴書をしっかりと完成させることができる。</li> <li>・就職活動を前提に、社会人としての常識やモラル、立ち居振る舞いを身につける。</li> <li>・面接試験においては物おじせず、自分の考えを相手に伝えることができる。</li> <li>・一般常識やSPIを繰り返すことにより、スキルの向上を図る。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト: ビジュアルで学ぶシリーズ これだけは知っておきたい! 面接対策&amp;ビジネスマナー(ウイネット)(ワークブック付属)</li> <li>・Webコンテンツ: ラインズドリルベーシック、ラインズSPI(ラインズ社)</li> </ul>								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動は卒業後の進路を決める重要な活動であり、本授業はその礎を築くものである。就職活動を主体的に捉え、積極的に取り組むこと。</li> <li>・ラインズは授業以外の時間も使用し、積極的に進めること。</li> </ul>								
成績評価の方法									

## 授業計画・授業内容

	テキスト・ワークブック	ラインズ
第1週	就職支援プログラム①	ラインズSPI SPI解答のテクニック 非言語①
第2週	就職支援プログラム②	ラインズSPI SPI解答のテクニック 非言語②
第3週	Ⅲ. 自己PR作成①	ラインズSPI SPI演習問題 非言語①
第4週	Ⅲ. 自己PR作成②	ラインズSPI SPI演習問題 非言語②
第5週	Ⅳ. 志望動機作成①	ラインズSPI SPI演習問題 非言語③
第6週	Ⅳ. 志望動機作成②	中間試験
第7週	V. エントリーシート・履歴書作成①	ラインズSPI SPI解答のテクニック 言語
第8週	V. エントリーシート・履歴書作成②	ラインズSPI SPI演習問題 言語①
第9週	Ⅵ. 企業訪問①	ラインズSPI SPI演習問題 言語②
第10週	Ⅵ. 企業訪問②	ラインズSPI SPI演習問題 言語③
第11週	Ⅶ. 面接試験①	ラインズSPI SPIマークシート
第12週	Ⅶ. 面接試験②	ラインズSPI SPIWebテストセンター
第13週	Ⅶ. 面接試験③	ラインズSPI SPIテストセンター
第14週	模擬面接	ラインズSPI 総まとめ
第15週	前期まとめ/期末試験	期末試験
	<p>※授業時間に、付属のワークブックの記入や動画の視聴も一部含む。</p> <p>※就職支援プログラムの実施時期は前後する場合がある。</p>	

科目名	音響技術A				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】音の理論から音響機器の構造や動作、音響機器の取り扱いなどを講義を通して学び、映像音響処理技術者認定試験やサウンドレコーディング技術認定試験の合格をめざす。</p> <p>【概要】 音の理論・音響機器の名称、役割、構造、動作原理など、音を具体的に表現するために必要な機器動作を理解する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音響理論である音の三要素や聴覚効果など音響の基本的な事柄が説明できること。</li> <li>・マイクの種類や特性、ミキサーなど音響機器の構造や動作が説明できること。</li> <li>・仕事別音響設備が理解できること。</li> <li>・各規格を理解し対応ができること。</li> <li>・舞台用語が理解できること。</li> </ul>								
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台機構調整技能士3級</li> <li>・サウンドレコーディング技術認定試験</li> <li>・映像音響処理技術者認定試験</li> </ul>								
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直流信号、交流信号などの電氣的知識が多少必要</li> <li>・対数などの数学的知識が多少必要</li> </ul>								
使用教材	サウンドレコーディング技術概論(一般社団法人 日本音楽スタジオ協会)								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は板書するので、ノートを用意すること。</li> <li>・大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をしましょう。</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス・音響とは
第2週	音の三要素
第3週	音の性質
第4週	聴覚と音の感じ方
第5週	デシベルと対数
第6週	電気の基礎①
第7週	電気の基礎②
第8週	マイクロフォン①
第9週	マイクロフォン②
第10週	スピーカー
第11週	ミキサー①
第12週	ミキサー②
第13週	音響機器の接続
第14週	前期総復習
第15週	期末試験
<p>※授業の進行は学生の理解度および習得状況に応じて、内容の順序や進度を調整する場合があります。</p>	

科目名	音響技術B				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	後期	時間/週	3	総授業時間	90	単位	6
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】音の理論から音響機器の構造や動作、音響機器の取り扱いなどを講義を通して学び、映像音響処理技術者認定試験やサウンドレコーディング技術認定試験の合格をめざす。</p> <p>【概要】 音の理論・音響機器の名称、役割、構造、動作原理など、音を具体的に表現するために必要な機器動作を理解する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音響理論である音の三要素や聴覚効果など音響の基本的な事柄が説明できること。</li> <li>・マイクの種類や特性、ミキサーなど音響機器の構造や動作が説明できること。</li> <li>・仕事別音響設備が理解できること。</li> <li>・各規格を理解し対応ができること。</li> <li>・舞台用語が理解できること。</li> </ul>								
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台機構調整技能士3級</li> <li>・サウンドレコーディング技術認定試験</li> <li>・映像音響処理技術者認定試験</li> </ul>								
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直流信号、交流信号などの電氣的知識が多少必要</li> <li>・対数などの数学的知識が多少必要</li> </ul>								
使用教材	サウンドレコーディング技術概論(一般社団法人 日本音楽スタジオ協会)								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は板書するので、ノートを用意すること。</li> <li>・大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をしましょう。</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	前期内容の確認
第2週	録音技術①
第3週	録音技術②
第4週	音響設備①
第5週	音響設備②
第6週	デジタル音響①
第7週	デジタル音響②
第8週	次世代音響技術①
第9週	次世代音響技術②
第10週	音楽理論と楽器①
第11週	音楽理論と楽器②
第12週	音楽著作権
第13週	制作現場と役割
第14週	総復習
第15週	期末試験
<p>※授業の進行は学生の理解度および習得状況に応じて、内容の順序や進度を調整する場合があります。</p>	

科目名	照明技術A				企業連携		授業方法		
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	原田 建			実務経験	(株)共立(テレビ朝日/生田スタジオ)でテレビ照明に従事、(株)東北共立では、宮城テレビにて派遣業務(テレビ照明)、東北共立本社ではイベント・舞台照明に従事。				
目的/概要	<p>【目的】対談番組や歌番組などスタジオ制作実習を通して、基本照明から番組形態による照明、更に演出を考えた照明など、照明技術から照明演出までトータル的に修得する。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人物照明とディスプレイ照明</li> <li>・番組形態舞台形態の違いによる照明の理解</li> <li>・番組演出・舞台演出と照明</li> <li>・撮影取材の照明</li> <li>・舞台機構と安全管理</li> </ul>								
到達目標	一般(環境)照明と演劇照明(舞台、テレビ、映画)の違いを理解すること、合わせて演劇照明技術、電気・電子・照明各工学系の基礎理論を理解して演劇照明を実践する為の基礎知識を身につけ、番組制作実習において、具体的に実践できること。								
目標資格	舞台機構調整技能士3級、2級(目標)								
前提知識	高校までに学んだ、学習内容と一般常識								
使用教材	担当者作成のプリント テレビ番組の制作技術(兼六館) 舞台テレビジョン照明 基礎編(日本照明家協会)								
履修上の注意	教科書の内容や板書したり、したものだけでなく講義中に話した内容にも十分に注意し、ノートやメモなどを取る。事前に次の講義範囲を提示するので、教科書や参考書に目を通し予習しておくこと。								
成績評価の方法	定期考査…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/照明技術の役割および番組制作における位置付けの理解
第2週	一般照明と舞台・テレビ・映画照明の違いの理解
第3週	舞台およびテレビの照明設備とその歴史の理解
第4週	光と色および視覚の基礎と明視論の理解
第5週	照明工学の基礎(光の性質と見え方)の理解
第6週	光源の種類と特性および調光装置の基礎理解
第7週	照明器具の種類と用途および選定方法の理解
第8週	舞台およびテレビ照明技術の基礎理論の理解
第9週	人物照明とディスプレイ照明の基礎理解
第10週	番組形態・舞台形態の違いによる照明設計の考え方
第11週	番組演出・舞台演出と照明の関係の理解
第12週	撮影・取材における照明技術の基礎理解
第13週	照明デザインの基礎と仕込み図作成の理解
第14週	舞台機構と安全管理および総合的な照明設計の理解
第15週	期末試験(筆記試験またはレポート評価)
<p>※授業の進行は学生の理解度および習得状況に応じて、内容の順序や進度を調整する場合があります。</p>	

科目名	照明技術B				企業連携		授業方法		
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	4
担当教員	原田 建			実務経験	(株)共立(テレビ朝日/生田スタジオ)でテレビ照明に従事、(株)東北共立では、宮城テレビにて派遣業務(テレビ照明)、東北共立本社ではイベント・舞台照明に従事。				
目的/概要	<p>【目的】対談番組や歌番組などスタジオ制作実習を通して、基本照明から番組形態による照明、更に演出を考えた照明など、照明技術から照明演出までトータル的に修得する。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人物照明とディスプレイ照明</li> <li>・番組形態舞台形態の違いによる照明の理解</li> <li>・番組演出・舞台演出と照明</li> <li>・撮影取材の照明</li> <li>・舞台機構と安全管理</li> </ul>								
到達目標	一般(環境)照明と演劇照明(舞台、テレビ、映画)の違いを理解すること、合わせて演劇照明技術、電気・電子・照明各工学系の基礎理論を理解して演劇照明を実践する為の基礎知識を身につけ、番組制作実習において、具体的に実践できること。								
目標資格	舞台機構調整技能士3級、2級(目標)								
前提知識	高校までに学んだ、学習内容と一般常識								
使用教材	担当者作成のプリント テレビ番組の制作技術(兼六館) 舞台テレビジョン照明 基礎編(日本照明家協会)								
履修上の注意	教科書の内容や板書したり、したものだけでなく講義中に話した内容にも十分に注意し、ノートやメモなどを取る。事前に次の講義範囲を提示するので、教科書や参考書に目を通し予習しておくこと。								
成績評価の方法	定期考査…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	前期内容の復習と照明技術の総理解の確認
第2週	人物照明の応用と映像表現における印象操作
第3週	ディスプレイ照明の応用と質感表現の強化
第4週	番組別照明設計(対談・バラエティ)の応用理解
第5週	音楽番組における照明演出とリズム表現
第6週	舞台照明と映像照明の融合的考え方の理解
第7週	光源・調光装置・照明器具の応用的運用技術
第8週	照明工学の応用と実践的な明視環境の設計
第9週	撮影現場における照明技術の応用と対応力強化
第10週	照明デザインと仕込み図作成の応用
第11週	番組制作を想定した照明設計演習
第12週	照明演出の総合的検討と改善
第13週	実践的照明プランの完成と発表準備
第14週	照明プラン発表と講評
第15週	期末試験(レポート提出または筆記試験)
<p>※授業の進行は学生の理解度および習得状況に応じて、内容の順序や進度を調整する場合があります。</p>	

科目名	PA実習 I A				企業連携	対象科目	授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	佐々木 克則			実務経験	イベント・コンサートの企画や運営及び文化施設の運営を行う企業で、音響拡声、録音、管理等の仕事に長年携わってきた経験を活かし実践的な授業を行う。				
目的/概要	<p>【目的】連携企業講師によるPAシステムのセットアップとオペレート及び出演者とのコミュニケーションを学修する。</p> <p>【概要】</p> <p>①セットアップ(コードの巻き方、スピーカの設置、機器の接続と操作)を学修する。          ②PAミキサーの基本(電源の投入、レベルの設定、音量の設定)を学修する。          ③キュー出し(指示の出し方、タイミング)など現場経験豊かな講師からノウハウを学修する。</p>								
到達目標	<p>①マイクケーブル等の特殊な巻き方が短時間で見栄えよくできる。          ②機器(マイク、ミキサー、アンプ、スピーカ)確実に接続できる。          ③ひずみやハウリングのない適正な音量でスピーカから音が出せる。          ④適正レベルでミキシングするための音響調整卓の操作ができる。          ⑤ミキシング操作がスムーズにできるようなキュー出しができる。</p>								
目標資格	舞台機構調整技能士3級、2級(目標)								
前提知識	特になし								
使用教材	実際の音響機材 音響映像設備マニュアル(リットーミュージック)								
履修上の注意	繊細な機器、重量の重い機器等いろいろな機器類があるので取り扱いや怪我等に十分注意すること。そのため作業時の服装についても考慮すること。								
成績評価の方法	・実技、授業への取り組む姿勢 ・課題レポート ・実技評価 などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス(授業概要・安全指導・機材の基礎知識)
第2週	ケーブルの種類と取り扱い/コードの巻き方①(基本)
第3週	コードの巻き方②(実践・スピードと美しさ)
第4週	音響機材の基礎理解(マイク・ミキサー・アンプ・スピーカ)
第5週	スピーカの設置法①(種類と特徴)
第6週	スピーカの設置法②(実践・安全管理)
第7週	音響卓(ミキサー)の構造理解
第8週	音響卓の設置と接続(システム構築基礎)
第9週	電源の投入手順(正しい順序とトラブル防止)
第10週	レベルの基礎①(ゲイン・フェーダーの理解)
第11週	レベルの基礎②(適正音量と歪み防止)
第12週	マイクロフォンの使い方①(種類と特性)
第13週	マイクロフォンの使い方②(セッティング実習)
第14週	前期総合実習(セットアップ～音出しまで一連の流れ)
第15週	前期期末試験(実技)
<p>※実習の進行は学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	PA実習 I B				企業連携	対象科目	授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	後期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	佐々木 克則			実務経験	イベント・コンサートの企画や運営及び文化施設の運営を行う企業で、音響拡声、録音、管理等の仕事に長年携わってきた経験を活かし実践的な授業を行う。				
目的/概要	<p>【目的】連携企業講師によるPAシステムのセットアップとオペレート及び出演者とのコミュニケーションを学修する。</p> <p>【概要】</p> <p>①セットアップ(コードの巻き方、スピーカの設置、機器の接続と操作)を学修する。          ②PAミキサーの基本(電源の投入、レベルの設定、音量の設定)を学修する。          ③キュー出し(指示の出し方、タイミング)など現場経験豊かな講師からノウハウを学修する。</p>								
到達目標	<p>①マイクケーブル等の特殊な巻き方が短時間で見栄えよくできる。          ②機器(マイク、ミキサー、アンプ、スピーカ)確実に接続できる。          ③ひずみやハウリングのない適正な音量でスピーカから音が出せる。          ④適正レベルでミキシングするための音響調整卓の操作ができる。          ⑤ミキシング操作がスムーズにできるようなキュー出しができる。</p>								
目標資格	舞台機構調整技能士3級、2級(目標)								
前提知識	特になし								
使用教材	実際の音響機材 音響映像設備マニュアル(リットーミュージック)								
履修上の注意	繊細な機器、重量の重い機器等いろいろな機器類があるので取り扱いや怪我等に十分注意すること。 そのために作業時の服装についても考慮すること。								
成績評価の方法	・実技、授業への取り組む姿勢 ・課題レポート ・実技評価 などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	前期復習/システムセットアップ確認
第2週	再生機器の使い方(プレイヤー・インターフェース)
第3週	アサインの設定①(信号の流れ理解)
第4週	アサインの設定②(実践)
第5週	イコライザーの使用法①(基本理論)
第6週	イコライザーの使用法②(実践・音作り)
第7週	ハウリング対策と音響トラブル対応
第8週	ミキシング基礎①(バランス調整)
第9週	ミキシング基礎②(複数入力の処理)
第10週	キュー出し①(基礎・合図の出し方)
第11週	キュー出し②(タイミングと現場対応)
第12週	出演者とのコミュニケーション実習
第13週	総合実習①(簡易PAオペレーション)
第14週	総合実習②(本番想定オペレーション)
第15週	後期期末試験(実技・総合評価)
<p>※実習の進行は学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	PROTOOLS実習 I A				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	小野寺 明敏			実務経験	アーティスト曲、CM楽曲のサウンドクリエイト				
目的/概要	<p>【目的】音楽の基礎的理論を理解し、コンピュータを核としたDAWのソフトウェア(ProTools)で音の加工や編集を行い音を仕上げる技術を学ぶ。また、ProTools技術認定試験の合格を目指す。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツール操作(ProTools技術認定試験対策も含む)・音源の取り込み・編集・効果・録音・作品制作(マスタリングも含む)</li> </ul>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ProTools技術認定試験(9月実施)に合格できる。</li> <li>・それぞれのツールを理解し、取り込んだ音源を編集して作品を仕上げることができる。</li> <li>・映像と音の理解を深める。</li> </ul>								
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ProTools技術認定試験</li> <li>・サウンドレコーディング技術認定試験</li> </ul>								
前提知識	特になし								
使用教材	ProTools技術認定試験問題集/技術資料集(JAPRS)								
履修上の注意	繊細かつ丁寧に取り込む姿勢が必要。								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/DAWの基礎概念・ProTools概要
第2週	PC操作基礎/ProTools基本操作(セッション作成)
第3週	ProTools基本操作(トラック・編集ツール)
第4週	デモ音源を用いた編集基礎
第5週	音源の取り込み(オーディオインポート)
第6週	基本編集(カット・フェード・タイミング調整)
第7週	プラグイン基礎①(EQ・Dynamics)
第8週	プラグイン基礎②(Reverb・Delay)
第9週	ミックス基礎①(レベル・パン)
第10週	ミックス基礎②(簡易ミックス実習)
第11週	ProTools技術認定試験対策①
第12週	ProTools技術認定試験対策②
第13週	グループ演習(課題制作)
第14週	前期総合制作(ミックスまで)
第15週	前期期末試験(課題作品提出)
<p>※実習の進行は学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	PROTOOLS実習 I B				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	後期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	小野寺 明敏		実務経験	アーティスト曲、CM楽曲のサウンドクリエイト					
目的/概要	<p>【目的】音楽の基礎的理論を理解し、コンピュータを核としたDAWのソフトウェア(ProTools)で音の加工や編集を行い音を仕上げる技術を学ぶ。また、ProTools技術認定試験の合格を目指す。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ツール操作(ProTools技術認定試験対策も含む)・音源の取り込み・編集・効果・録音・作品制作(マスタリングも含む)</li> </ul>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ProTools技術認定試験(9月実施)に合格できる。</li> <li>・それぞれのツールを理解し、取り込んだ音源を編集して作品を仕上げることができる。</li> <li>・映像と音の理解を深める。</li> </ul>								
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ProTools技術認定試験</li> <li>・サウンドレコーディング技術認定試験</li> </ul>								
前提知識	特になし								
使用教材	ProTools技術認定試験問題集/技術資料集(JAPRS)								
履修上の注意	繊細かつ丁寧に取り込む姿勢が必要。								
成績評価の方法	・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	前期復習/セッション構築の確認
第2週	録音基礎(マイク・入力設定)
第3週	録音実習(ボーカル・楽器)
第4週	編集応用(タイミング補正・ピッチ補正)
第5週	ミックス応用①(EQ・Dynamics詳細)
第6週	ミックス応用②(空間系・質感調整)
第7週	マスタリング基礎(音圧・書き出し)
第8週	生音バンド音源ミックス①
第9週	生音バンド音源ミックス②
第10週	ミックス～マスタリング総合実習
第11週	映像と音の基礎(同期・編集)
第12週	映像作品への音付け①(効果音・BGM)
第13週	映像作品への音付け②(整音・仕上げ)
第14週	後期総合制作(作品完成)
第15週	後期期末試験(課題作品提出・評価)
<p>※実習の進行は学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	MA実習 I A				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	小野寺 明敏			実務経験	アーティスト曲、CM楽曲のサウンドクリエイト				
目的/概要	<p>【目的】ポストプロダクション業務を理解しその中のMA作業について学習する。</p> <p>【概要】ProToolsでのMA作業を修得する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ProTools技術認定試験合格できる。</li> <li>・シンプルな映像編集完了映像に音処理ができる。</li> <li>・映像に音を付けるとは、何かを理解できる。</li> </ul>								
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ProTools技術認定試験</li> <li>・映像音響処理技術者認定試験</li> </ul>								
前提知識	特になし								
使用教材	ProTools技術認定試験問題集/技術資料集(JAPRS)								
履修上の注意	繊細かつ丁寧に取り込む姿勢が必要。								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題作品評価(定期考査)…80%</li> <li>・授業に取り組む姿勢…20%</li> </ul> などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/MA作業の役割および作品制作の流れの理解
第2週	映像に音を付ける意味と演出・心理効果の基礎理解
第3週	素材確認とセッション準備および作業フローの理解
第4週	作品制作課題①素材整理と基本的な音編集作業
第5週	ノイズ処理とレベル調整による整音の基礎
第6週	作品制作課題②整音処理を用いた音質改善
第7週	効果音(SE)の選定と配置による基礎的演出
第8週	作品制作課題③効果音による演出構築
第9週	BGMの選定と配置による映像演出の基礎
第10週	作品制作課題④BGMを含めた音構成の作成
第11週	ナレーション素材の配置と基本的な整音処理
第12週	作品制作課題⑤ナレーションを含めた構成完成
第13週	ミックスダウンによる全体バランス調整の基礎
第14週	作品制作課題⑥mp3・mp4形式での書き出しと作品完成
第15週	期末試験(実技:指定素材を用いたMA作品制作)
<p>※実習の進行は学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	MA実習 I B				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	後期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	小野寺 明敏			実務経験	アーティスト曲、CM楽曲のサウンドクリエイト				
目的/概要	<p>【目的】ポストプロダクション業務を理解しその中のMA作業について学習する。</p> <p>【概要】ProToolsでのMA作業を修得する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ProTools技術認定試験合格できる。</li> <li>・シンプルな映像編集完了映像に音処理ができる。</li> <li>・映像に音を付けるとは、何かを理解できる。</li> </ul>								
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ProTools技術認定試験</li> <li>・映像音響処理技術者認定試験</li> </ul>								
前提知識	特になし								
使用教材	ProTools技術認定試験問題集/技術資料集(JAPRS)								
履修上の注意	繊細かつ丁寧に取り込む姿勢が必要。								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題作品評価(定期考査)…80%</li> <li>・授業に取り組む姿勢…20%</li> </ul> などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	前期内容の復習とMA制作工程の再確認
第2週	素材分析に基づく音設計プランニングの実践
第3週	整音の応用による音質向上とノイズ対策
第4週	作品制作課題①応用整音による品質向上
第5週	効果音演出の応用によるリアリティ強化
第6週	作品制作課題②効果音演出の応用実践
第7週	BGM演出の応用による感情表現の強化
第8週	作品制作課題③BGMを含めた演出構成の完成
第9週	ナレーション・セリフの演出処理と表現力向上
第10週	作品制作課題④音声表現を含めた構成制作
第11週	シーン全体の音バランス設計と演出意図の明確化
第12週	作品制作課題⑤ミックスダウンによる完成度向上
第13週	ラウドネス調整と納品レベルの理解
第14週	作品制作課題⑥mp3・mp4書き出しおよび作品完成
第15週	期末試験(実技:完成作品提出)
<p>※実習の進行は学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	レコーディング実習 I A				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクの取り扱い、音響機器の簡単な接続法や録音方法を修得し以降の実習に備える。DAWを使用し音楽における楽器間のバランスがとれステレオ空間に音像を定位し、音色加工と効果付加を行い作品を仕上げられるようにする。</li> </ul> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクアレンジ ・機器の接続と操作 ・レベルの設定・音量の設定 ・DAWと音響調整卓の接続 ・バランスと定位・音色加工効果の種類と機器の接続</li> </ul>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器同士を録音できる状態に正しく接続出来る。</li> <li>・適正な音量でスピーカから音が出せる。</li> <li>・正しいレベルで録音できるよう音響調整卓の操作等が出来る。</li> <li>・各種音響設備を理解しそれらの接続法を習得する。</li> <li>・各楽器の音を理解し、各エフェクト調整ができる。</li> <li>・楽曲ごとのレベルとバランスがとれる。</li> </ul>								
目標資格	サウンドレコーディング技術認定試験								
前提知識	音響技術およびPA基礎実習で学んだ知識								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	・繊細な機器、重量の重い機器等いろいろな機器類があるので取り扱いや怪我等に十分注意すること								
成績評価の方法	・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/レコーディング実習の目的および安全管理の理解
第2週	電源投入手順と音響機器の基本的な取り扱い
第3週	マイクスタンドの取り扱いとセッティングの基礎
第4週	作品制作課題①マイクセッティングの実践と確認
第5週	マイクアレンジの基礎と楽器別セッティング理解
第6週	作品制作課題②マイク配置による録音実習
第7週	機器の接続方法と信号の流れの理解
第8週	作品制作課題③正しい接続による録音環境構築
第9週	レベル設定の基礎と適正入力レベルの理解
第10週	作品制作課題④レベル調整を含めた録音実習
第11週	音量設定とスピーカ出力の適正管理
第12週	作品制作課題⑤音量管理を含めた録音実践
第13週	ミキシングの基礎とバランス調整の理解
第14週	作品制作課題⑥録音から簡易ミックスまでの実践
第15週	期末試験(実技:機器接続および録音課題)
<p>※実習の進行は学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p> <p>※楽器や実習環境により実録音が困難な場合は、事前収録された素材を使用する場合があります。</p>	

科目名	レコーディング実習 I B				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	1	履修学期	後期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクの取り扱い、音響機器の簡単な接続法や録音方法を修得し以降の実習に備える。DAWを使用し音楽における楽器間のバランスがとれステレオ空間に音像を定位し、音色加工と効果付加を行い作品を仕上げられるようにする。</li> </ul> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクアレンジ ・機器の接続と操作 ・レベルの設定・音量の設定 ・DAWと音響調整卓の接続 ・バランスと定位・音色加工効果の種類と機器の接続</li> </ul>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器同士を録音できる状態に正しく接続出来る。</li> <li>・適正な音量でスピーカから音が出せる。</li> <li>・正しいレベルで録音できるよう音響調整卓の操作等が出来る。</li> <li>・各種音響設備を理解しそれらの接続法を習得する。</li> <li>・各楽器の音を理解し、各エフェクト調整ができる。</li> <li>・楽曲ごとのレベルとバランスがとれる。</li> </ul>								
目標資格	サウンドレコーディング技術認定試験								
前提知識	音響技術およびPA基礎実習で学んだ知識								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	・繊細な機器、重量の重い機器等いろいろな機器類があるので取り扱いや怪我等に十分注意すること								
成績評価の方法	・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	前期内容の復習と録音からミックスまでの流れの再確認
第2週	DAWと音響調整卓の接続方法と信号ルーティングの理解
第3週	バランスと定位の基礎とステレオ空間の理解
第4週	作品制作課題①バランスと定位を意識したミックス実習
第5週	各楽器の音色特性の理解とミックスへの応用
第6週	作品制作課題②楽器バランスを考慮したミックス制作
第7週	音色加工(EQ・コンプレッサー等)の基礎理解
第8週	作品制作課題③音色加工を用いた音作り実践
第9週	効果の種類(リバーブ・ディレイ等)と役割の理解
第10週	作品制作課題④空間系エフェクトを用いた表現制作
第11週	エフェクト機器の接続と設定方法の理解
第12週	作品制作課題⑤エフェクトを含めた総合ミックス
第13週	楽曲全体のレベルとバランスの最終調整
第14週	作品制作課題⑥完成作品の制作と書き出し
第15週	期末試験(実技:録音およびミックス作品提出)
<p>※実習の進行は学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p> <p>※楽器や実習環境により実録音が困難な場合は、事前収録された素材を使用する場合があります。</p>	

科目名	検定対策 I				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	猪又 悠佑			実務経験					
目的/概要	<b>【目的】</b> 舞台機構調整技能士検定3級の合格率向上を目的とする。 <b>【概要】</b> 過去問題および過去問題集(舞台機構調整技能士は筆記のみ)を使用して検定対策を行う。								
到達目標	以下の検定に合格する。 ・舞台機構調整技能士(3級)								
目標資格	・舞台機構調整技能士(3級) ・Pro Tools技術認定試験								
前提知識	特になし								
使用教材	・舞台機構調整技能検定3級試験問題集(兼六館出版) ・ProTools技術認定試験問題集/技術資料集(JAPRS)								
履修上の注意	演習中心となるので検定日から逆算し自ら計画を立てて学修すること、また、疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。								
成績評価の方法	・課題評価(定期考査)…40% ・検定合否結果…40% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/【舞台機構調整技能検定3級対策】 舞台一般 催物の種類、劇場の種類、舞台の種類
第2週	【舞台機構調整技能検定3級対策】 舞台一般 催物の種類、劇場の種類、舞台の種類
第3週	【舞台機構調整技能検定3級対策】 舞台一般 舞台用語
第4週	【舞台機構調整技能検定3級対策】 音響機構調整法 音響の基礎知識
第5週	【舞台機構調整技能検定3級対策】 音響機構調整法 音源の基礎知識
第6週	【舞台機構調整技能検定3級対策】 音響機構調整法 音響機器の機能及び用途、音場の構成表
第7週	【舞台機構調整技能検定3級対策】 電気 電気工学及び電子工学の基礎理論
第8週	【舞台機構調整技能検定3級対策】 電気 電気機器及び電気計器の使用方法
第9週	【舞台機構調整技能検定3級対策】 関係法規、安全衛生
第10週	【舞台機構調整技能検定3級対策】 過去問題(直近3回分)
第11週	舞台機構調整技能検定3級 筆記試験 自己採点
第12週	【Pro Tools技術認定試験対策】 過去問題集 弱点分野を中心に演習
第13週	【Pro Tools技術認定試験対策】 過去問題集 弱点分野を中心に演習
第14週	【Pro Tools技術認定試験対策】 過去問題集 弱点分野を中心に演習
第15週	期末試験

科目名	ビジネススキルトレーニング I				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	山崎 徹		実務経験						
目的/概要	<p>【目的】 情報関連科目を学習するために必要なWord、Excel、PowerPoint等のオフィスソフトの基本操作を修得する。 また、AIリテラシーを修得する。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セキュリティについて正確な知識を身につける。</li> <li>・Word、PowerPointについて、基本的な操作を身につける。</li> </ul>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Officeスイートの基本操作を習得し、操作できる。</li> <li>・Word、Excel、PowerPointによる文書作成や表作成、図形や画像を利用した文書を作成できる。</li> <li>・AIに関する基本的な考え方や知識、活用事例などのついて理解する</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校の情報科目履修程度の知識</li> <li>・マウスの使用、簡単な文字入力</li> </ul>								
使用教材	・ポイントでマスター 基礎からはじめる情報リテラシー Office 2021 (実教出版)								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・e-Learningは「見ただけ」「読んだだけ」では効果なし！ 大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をが必要</li> <li>・テキストの持参</li> </ul>								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト課題の提出物</li> <li>・授業への取り組む姿勢などで総合的に評価する</li> </ul>								

## 授業計画・授業内容

第1週	第2章 Word①
第2週	第2章 Word②
第3週	第2章 Word③
第4週	第2章 Word④
第5週	第2章 Word⑤
第6週	第3章 Excel①
第7週	第3章 Excel②
第8週	第3章 Excel③
第9週	第3章 Excel④
第10週	第3章 Excel⑤
第11週	第3章 Excel⑥
第12週	第4章 PowerPoint①
第13週	第4章 PowerPoint②
第14週	第4章 PowerPoint③
第15週	期末試験
<p>※実習の進行は学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	ビジネスワークショップ I				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 時代に即した働き方を鑑みフリーランスとして起業する際に必要なHow toをワークショップにて体験する。(2年生と合同)</p> <p>【概要】 2年生との合同グループにおいて新規の会社を起業するために必要なプロセスを疑似体験する。 ・ビジネスモデル・戦略モデル・オペレーションモデル・収益モデルを学びグループ単位に疑似会社を起こす。</p>								
到達目標	以下のモデルを理解し、説明できる。 ・ビジネスモデル・戦略モデル・オペレーションモデル・収益モデル								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	この一冊で全部わかるビジネスモデル—基本・成功パターン・作り方が一気に学べる								
履修上の注意	学年を跨いでの演習となるので積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。								
成績評価の方法	・課題評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンスと授業目的の理解およびグループ編成
第2週	ビジネスモデルの基礎理解と代表例の学習
第3週	戦略モデルの基礎理解と競争戦略の考え方
第4週	作品制作課題①グループでのビジネスアイデア検討
第5週	オペレーションモデルの基礎理解と業務設計
第6週	作品制作課題②事業運営プロセスの整理
第7週	収益モデルの基礎理解と収益構造の考え方
第8週	作品制作課題③収益モデルの設計
第9週	5W1Hによる課題整理と起業プロセスの明確化
第10週	作品制作課題④起業プランの構築
第11週	プレゼンテーション手法の理解と資料作成
第12週	作品制作課題⑤プレゼン資料の作成
第13週	プレゼンテーション準備とリハーサル
第14週	作品制作課題⑥起業プランの発表と相互評価
第15週	期末試験(プレゼンテーション評価)

音響制作科

2年

科目名	就職対策ⅡA				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 就職試験対策と職場の人間関係に必要な「一般常識」を学び、就職活動支援を目的とする。</p> <p>【概要】 ・エントリーシート、履歴書記入演習 ・ 作文、論文演習</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>志望業種別或いは志望企業向けのエントリーシート及び履歴書作成の演習を行い就職への意識向上を図り、受験企業に提出する履歴書が書ける。</li> <li>作文と論文を書く演習を通して、実際の試験でのテーマの絞込み、時間配分などを身に付け、具体的な論作文が書ける。</li> <li>入退社から応対、言葉使いなど、演習を通じて面接に必要な知識を身につけ、実際の面接で「自分を自然に表現」出来るように行動できる。</li> <li>面談を通して、就職の意義、情報提供、活動状況を共有し、内定を得る。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	担当者作成のプリント 面接対策&ビジネスマナー(ウイネット)								
履修上の注意	常に就職への意識を持って授業に取り組むこと								
成績評価の方法	・一般常識実力試験…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンスと就職活動の全体像および直近スケジュールの確認
第2週	自己分析と志望業界・職種の最終整理
第3週	履歴書・エントリーシートの最終確認とブラッシュアップ
第4週	面接対策① 基本マナーと頻出質問の最終確認
第5週	面接演習① 個別面接形式による実践練習
第6週	面接演習② 志望動機・自己PRの完成度向上
第7週	内定者向け基礎① 社会人マナーと職場理解
第8週	就職活動継続者向け対策① 面接・書類の個別指導
第9週	内定者向け基礎② 報連相とコミュニケーション
第10週	就職活動継続者向け対策② 実践面接演習
第11週	内定者向け応用① ケーススタディによる課題理解
第12週	就職活動継続者向け対策③ 企業別対策と弱点克服
第13週	内定者向け応用② 社会人としての行動計画作成
第14週	総合演習(内定者・継続者別対応による最終調整)
第15週	期末試験(面接実技またはレポート評価)

科目名	就職対策ⅡB				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 就職試験対策と職場の人間関係に必要な「一般常識」を学び、就職活動支援を目的とする。</p> <p>【概要】 ・エントリーシート、履歴書記入演習 ・ 作文、論文演習</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>志望業種別或いは志望企業向けのエントリーシート及び履歴書作成の演習を行い就職への意識向上を図り、受験企業に提出する履歴書が書ける。</li> <li>作文と論文を書く演習を通して、実際の試験でのテーマの絞込み、時間配分などを身に付け、具体的な論作文が書ける。</li> <li>入退社から応対、言葉使いなど、演習を通じて面接に必要な知識を身につけ、実際の面接で「自分を自然に表現」出来るように行動できる。</li> <li>面談を通して、就職の意義、情報提供、活動状況を共有し、内定を得る。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	担当者作成のプリント 面接対策&ビジネスマナー(ウイネット)								
履修上の注意	常に就職への意識を持って授業に取り組むこと								
成績評価の方法	・一般常識実力試験…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	就職活動状況の共有と後期目標設定
第2週	企業研究の深化と志望動機の再構築
第3週	面接対策応用(個別・集団・オンライン対応)
第4週	面接演習③ 実践形式による応用トレーニング
第5週	作文・論文応用(時間配分と構成力強化)
第6週	作文・論文演習② 本試験形式での実践
第7週	内定者向け実務① ビジネスマナー実践と職場適応
第8週	就職活動継続者向け対策④ 面接・書類の強化指導
第9週	内定者向け実務② コミュニケーションとチームワーク
第10週	就職活動継続者向け対策⑤ 実践面接演習
第11週	内定者向け実務③ 業務理解とケーススタディ
第12週	就職活動継続者向け対策⑥ 個別課題の克服
第13週	内定者向け総合演習(社会人準備の最終確認)
第14週	総括(就職活動振り返りと社会人移行準備)
第15週	期末試験(レポート提出または面談評価)

科目名	照明実習				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	前期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	原田 建			実務経験	(株)共立(テレビ朝日/生田スタジオ)でテレビ照明に従事、(株)東北共立では、宮城テレビにて派遣業務(テレビ照明)、東北共立本社ではイベント、舞台照明に従事。				
目的/概要	<p>【目的】 照明プラン図を理解し、器具つり込み、卓の操作、シュート(配光)の舞台実習を通し、照明効果を学び、イベント照明、音楽照明、芝居の照明などのプラン図を作成し運用することを修得する。</p> <p>【概要】 ①舞台機構と照明機構と舞台用語の理解 ②各照明器具の取り扱い方の理解 ③イベント照明 ④音楽照明 ⑤芝居(心理描写を表現する)照明</p>								
到達目標	<p>①舞台機構、照明機構、舞台用語の修得 ②舞台演目の違いによる照明家の考え方を学び、器具の選定、仕込み作業などを実習を通して修得 ③光と影の効果を理解した上で、色光の効果を修得 ④制作演出との打ち合わせを行い、照明プラン図の作成から実際の運用までの一貫したライティングを行うことを修得</p>								
目標資格	舞台機構調整技能士3級、2級(目標)								
前提知識	1年次に学修した基本的知識を理解していること								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的にを行い、即時に解決するように努力すること。								
成績評価の方法	・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/舞台機構および照明機構と舞台用語の理解
第2週	照明器具の種類と特徴および基本的な取り扱い方法の理解
第3週	光の方向と角度による照明効果の基礎理解
第4週	実習課題①基本的な照明器具のセッティングと確認
第5週	色光の効果と作り方の基礎理解
第6週	実習課題②色光を用いた照明表現の実践
第7週	照明プラン図の読み取りと基本構成の理解
第8週	実習課題③簡易プラン図の作成と仕込み準備
第9週	仕込み作業(器具の吊り込み・設置)の基礎
第10週	実習課題④器具の吊り込みと安全な設置作業
第11週	照明卓の基本操作とシュート(配光)の理解
第12週	実習課題⑤卓操作と配光による照明調整
第13週	イベント・音楽・芝居照明の基礎と演出意図の理解
第14週	実習課題⑥総合演出に対応した照明仕込みと運用
第15週	期末試験(実技:照明プラン作成および運用)

科目名	PA実習Ⅱ				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	前期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】</p> <p>①実際の音響システム・セットアップ・音響機器の習得をしPAペレーション等を習得する。</p> <p>②舞台演出・音響・照明の関わりを理解し必要な知識・技術を実習と通じて学修する。</p> <p>【概要】</p> <p>①音響システムプランに基づいた機材準備、セット、チェック、機器操作を習得する。また、舞台機構調整技能検定実技対策実習を行う。</p> <p>②各内容に応じて音響プランニングをし機材準備から音出しまでする。各スタッフと連携イベントを制作する。</p>								
到達目標	<p>①音響プラン・仕込み図作成しそれに従いセット・チェック・機器操作技術の修得。</p> <p>舞台機構調整技能検定実技試験に合格すること。</p> <p>②制作に於いてはスタッフとして役割を果たし、作品クオリティー向上の為、考えて行動出来る様になる事。</p>								
目標資格	舞台機構調整技能士3級、2級(目標)								
前提知識	1年次に学修した音響技術、PA実習の知識								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	機器類は重量も重く、危険も伴うので服装・運搬・取り扱いには十分注意すること。								
成績評価の方法	・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンスと舞台機構調整技能検定実技試験の概要理解
第2週	音響システムの基本構成と機材準備および安全管理
第3週	機器接続と信号の流れおよび基本操作の確認
第4週	実習課題①検定課題に基づく機器セッティング実習
第5週	マイク・スピーカーの設置と音出し確認の基礎
第6週	実習課題②検定形式によるセッティングと音出し
第7週	ミキサー操作とレベル調整の基礎
第8週	実習課題③ミキサー操作を含めた検定対策実習
第9週	トラブル対応とチェック方法の理解
第10週	実習課題④想定トラブル対応を含めた検定対策
第11週	総合実技対策(仕込みから音出しまでの一連作業)
第12週	実習課題⑤本番想定による検定実技リハーサル
第13週	舞台機構調整技能検定実技試験直前対策と個別指導
第14週	実習課題⑥模擬試験形式による最終確認
第15週	期末試験(実技:検定形式による評価)
<p>※授業の進行は学生の理解度および習得状況、ならびに技能検定実技試験日程を考慮し調整する場合があります。</p>	

科目名	PROTOOLS実習ⅡA				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	前期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	小野寺 明敏			実務経験	アーティスト曲、CM楽曲のサウンドクリエイト				
目的/概要	<p>【目的】 DAWを活用した制作過程のプリ/ポスト・プロダクション、オーサリング、MA、マスタリングを学修する</p> <p>【概要】 ・録音編集作業を終えたファイルや波形の編集やミックスの修正方法を学修する。 ・「クロス・フェード」を上手く掛ける方法を学修する。 ・DVD、CDの原盤を作成のために画像・音声を編集するマスタリングを学修する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DAWを活用した制作過程で創作した作品(音声作品)を完成させる。</li> <li>・完成した作品を視聴して、感想等の意見交換を行い、レポートにまとめる。</li> </ul>								
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ProTools技術認定試験</li> <li>・サウンドレコーディング技術認定試験</li> </ul>								
前提知識	1年次に学修したDAW基礎実習の知識								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	繊細かつ丁寧に取り込む姿勢が必要。								
成績評価の方法	・提出課題…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンスとDAWを用いた制作工程(プリ/ポスト)の理解
第2週	レコーディングデータの確認とトラック制作の基礎
第3週	アレンジの基礎とトラック構成の理解
第4週	実習課題①トラック制作およびアレンジ実習
第5週	音声波形編集の基礎(カット・フェード)の理解
第6週	実習課題②波形編集とクロスフェード処理の実践
第7週	ミックスの基礎とバランス調整の理解
第8週	実習課題③ミックスおよび音量・定位の調整
第9週	ミックス修正と仕上げのための処理技術
第10週	実習課題④ミックス修正と音質調整の実践
第11週	バウンス処理と書き出し形式の理解
第12週	実習課題⑤バウンスによる音源書き出し
第13週	MA処理およびマスタリングの基礎理解
第14週	実習課題⑥マスタリングを含めた作品完成
第15週	期末試験(実技:音声作品提出)
<p>※実習の進行は学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	PROTOOLS実習ⅡB				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	後期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	小野寺 明敏		実務経験	アーティスト曲、CM楽曲のサウンドクリエイト					
目的/概要	<p>【目的】 DAWを活用した制作過程のプリ/ポスト・プロダクション、オーサリング、MA、マスタリングを学修する</p> <p>【概要】 ・録音編集作業を終えたファイルや波形の編集やミックスの修正方法を学修する。 ・「クロス・フェード」を上手く掛ける方法を学修する。 ・DVD、CDの原盤を作成のために画像・音声を編集するマスタリングを学修する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DAWを活用した制作過程で創作した作品(音声作品)を完成させる。</li> <li>・完成した作品を視聴して、感想等の意見交換を行い、レポートにまとめる。</li> </ul>								
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ProTools技術認定試験</li> <li>・サウンドレコーディング技術認定試験</li> </ul>								
前提知識	1年次に学修したDAW基礎実習の知識								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	繊細かつ丁寧に取り込む姿勢が必要。								
成績評価の方法	・提出課題…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	前期内容の復習と制作工程の再確認
第2週	レコーディングおよびトラック制作の応用
第3週	アレンジの応用と作品構成力の向上
第4週	実習課題①応用トラック制作とアレンジ実習
第5週	波形編集の応用と精密なクロスフェード処理
第6週	実習課題②編集精度向上と違和感のない接続
第7週	ミックスの応用と音圧・バランスの最適化
第8週	実習課題③応用ミックスと音質改善
第9週	MA処理の応用と映像音声対応の理解
第10週	実習課題④MA処理を含めた音声制作
第11週	マスタリングの応用と最終音質調整
第12週	実習課題⑤完成度を高めた作品制作
第13週	視聴および意見交換と作品評価
第14週	実習課題⑥最終作品の完成と発表
第15週	期末試験(実技:作品提出およびレポート)
<p>※実習の進行は学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	MA実習ⅡA				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	小野寺 明敏			実務経験	アーティスト曲、CM楽曲のサウンドクリエイト				
目的/概要	<p>【目的】 DAWを活用した制作過程のプリ/ポスト・プロダクション、オーサリング、MA、マスタリングを学修する</p> <p>【概要】 ・録音編集作業を終えたファイルや波形の編集やミックスの修正方法を学修する。 ・「クロス・フェード」を上手く掛ける方法を学修する。 ・DVD、CDの原盤を作成のために画像・音声を編集するマスタリングを学修する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フルデジタルシステムでの収録と編集ができる。</li> <li>・映像音響処理技術者認定試験合格できる。</li> <li>・ロケーション番組制作における、オンライン編集後のMA処理ができる。</li> </ul>								
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ProTools技術認定試験</li> <li>・サウンドレコーディング技術認定試験</li> </ul>								
前提知識	1年次に学修したDAW基礎実習の知識								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	繊細かつ丁寧に取り込む姿勢が必要。								
成績評価の方法	・提出課題…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/MA作業およびポストプロダクション工程の理解
第2週	ガンマイクによる収録技術と取材方法の基礎
第3週	ワイヤレスマイクによる収録技術と運用方法の理解
第4週	実習課題①マイク別収録による音声収録実習
第5週	フルデジタルシステムでの収録と信号処理の理解
第6週	実習課題②デジタル環境での収録と編集実習
第7週	音声編集の基礎(波形編集とクロスフェード処理)
第8週	実習課題③編集および整音処理の実践
第9週	ミックスの基礎と音声バランス調整
第10週	実習課題④ミックスおよび音質調整
第11週	5.1サラウンドの基礎と音場設計の理解
第12週	実習課題⑤サラウンド収録および配置実習
第13週	MA処理の基礎と映像音声の同期理解
第14週	実習課題⑥MA処理による作品完成
第15週	期末試験(実技:MA作品制作)
<p>※実習の進行は学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	MA実習ⅡB				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	小野寺 明敏			実務経験	アーティスト曲、CM楽曲のサウンドクリエイト				
目的/概要	<p>【目的】 DAWを活用した制作過程のプリ/ポスト・プロダクション、オーサリング、MA、マスタリングを学修する</p> <p>【概要】 ・録音編集作業を終えたファイルや波形の編集やミックスの修正方法を学修する。 ・「クロス・フェード」を上手く掛ける方法を学修する。 ・DVD、CDの原盤を作成のために画像・音声を編集するマスタリングを学修する。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フルデジタルシステムでの収録と編集ができる。</li> <li>・映像音響処理技術者認定試験合格できる。</li> <li>・ロケーション番組制作における、オンライン編集後のMA処理ができる。</li> </ul>								
目標資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ProTools技術認定試験</li> <li>・サウンドレコーディング技術認定試験</li> </ul>								
前提知識	1年次に学修したDAW基礎実習の知識								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	繊細かつ丁寧に取り込む姿勢が必要。								
成績評価の方法	・提出課題…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	前期内容の復習とロケーション制作におけるMA工程の再確認
第2週	ロケーション番組制作における収録設計の理解
第3週	映像編集後素材の確認とMA処理の流れの理解
第4週	実習課題①ロケ素材を用いた音声整理と編集
第5週	ノイズ処理と整音の応用技術
第6週	実習課題②整音および音質改善処理
第7週	効果音・環境音の構築と演出効果の理解
第8週	実習課題③効果音を含めた音響構成制作
第9週	ナレーションおよびセリフ処理と同期調整
第10週	実習課題④ナレーション編集と映像同期
第11週	サラウンドおよびステレオミックスの応用
第12週	実習課題⑤最終ミックスと音場設計
第13週	マスタリングと納品形式(DVD・データ)の理解
第14週	実習課題⑥完成作品の書き出しと講評
第15週	期末試験(実技:ロケーションMA作品提出)
<p>※実習の進行は学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	レコーディング実習ⅡA				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	前期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的/概要	<p><b>【目的】</b>  1. マイクアレンジによる音色の違い、各種音源収録法マルチトラックレコーディングについて学習する。  2. ラジオ番組制作実習を通して、演出、進行、技術のそれぞれの役割と公開に関わるコンプライアンスを学修する。</p> <p><b>【概要】</b>  1. 各音源に対してのマイキングと録音レベルの設定、音色加工と効果付加を修得する。  2. ラジオ番組の企画、タイムキープ、表現力の習得を理解し、レコーディングエンジニアとして番組制作を行う。</p>								
到達目標	1. 各音源に対してのマイキングと録音レベルの設定、ステレオレコーダ及びDAWへの録音ができる。 2. 制作内容を理解し、考え、行動し、作品の中に結果が出ていること、完成作品にコンプライアンスに抵触するような表現がないこと。								
目標資格	サウンドレコーディング技術認定試験								
前提知識	1年次に学修した音響技術、レコーディング基礎実習の知識								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的にを行い、即時に解決するように努力すること。								
成績評価の方法	・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンスとマルチトラックレコーディングおよび番組制作の概要理解
第2週	マイクアレンジの基礎と音色変化の理解
第3週	録音レベル設定と各種音源収録方法の基礎
第4週	実習課題①マイキングとマルチトラック録音実習
第5週	トラックダウンとミキシングの基礎理解
第6週	実習課題②トラックダウンとミックス処理実習
第7週	ラジオ・テレビ番組の企画基礎と構成の理解
第8週	実習課題③番組企画立案(エンターテインメント性重視)
第9週	音楽ジャンルと録音方法の理解
第10週	実習課題④音楽素材を用いた収録および選曲実習
第11週	タイムキープと番組進行および表現力の基礎
第12週	実習課題⑤番組収録および進行実習
第13週	番組制作における收音・編集・効果音処理の基礎
第14週	実習課題⑥番組編集および完成作品制作
第15週	期末試験(実技:ラジオ番組作品提出)
<p>※実習の進行は学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	レコーディング実習ⅡB				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	後期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的/概要	<p><b>【目的】</b>  1. マイクアレンジによる音色の違い、各種音源収録法マルチトラックレコーディングについて学習する。  2. ラジオ番組制作実習を通して、演出、進行、技術のそれぞれの役割と公開に関わるコンプライアンスを学修する。</p> <p><b>【概要】</b>  1. 各音源に対してのマイキングと録音レベルの設定、音色加工と効果付加を修得する。  2. ラジオ番組の企画、タイムキープ、表現力の習得を理解し、レコーディングエンジニアとして番組制作を行う。</p>								
到達目標	1. 各音源に対してのマイキングと録音レベルの設定、ステレオレコーダ及びDAWへの録音ができる。 2. 制作内容を理解し、考え、行動し、作品の中に結果が出ていること、完成作品にコンプライアンスに抵触するような表現がないこと。								
目標資格	サウンドレコーディング技術認定試験								
前提知識	1年次に学修した音響技術、レコーディング基礎実習の知識								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	実習中心の講義となるので、実習には積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的にを行い、即時に解決するように努力すること。								
成績評価の方法	・課題作品評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	前期内容の復習と録音および番組制作工程の再確認
第2週	マイクアレンジの応用と音源別収録技術の向上
第3週	マルチトラックレコーディングの応用と音質管理
第4週	実習課題①応用マイキングと録音実習
第5週	トラックダウンとミキシングの応用技術
第6週	実習課題②ミックスによる作品完成度向上
第7週	番組企画の応用と構成力および演出力の強化
第8週	実習課題③エンターテインメント性を重視した番組企画
第9週	各種番組の收音と処理(選曲・編集・効果音)の理解
第10週	実習課題④番組収録と音響演出の実践
第11週	タイムキープとディレクションおよび表現力の向上
第12週	実習課題⑤チームによる番組制作実習
第13週	コンプライアンスと放送表現の最終確認
第14週	実習課題⑥完成作品の制作と発表
第15週	期末試験(実技:番組作品提出)
<p>※実習の進行は学生の理解度および技能習得状況に応じて、進度や内容を柔軟に調整する場合があります。</p>	

科目名	検定対策Ⅱ				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	1	履修学期	前期	時間/週	2	総授業時間	60	単位	2
担当教員	猪又 悠佑			実務経験					
目的/概要	<b>【目的】</b> サウンドレコーディング技術認定試験、映像音響処理技術者認定試験等の合格率向上を目的とする。 <b>【概要】</b> 過去問題および過去問題集を使用して検定対策を行う。								
到達目標	以下の検定に合格する。 ・サウンドレコーディング技術認定試験 ・映像音響処理技術者認定試験								
目標資格	・サウンドレコーディング技術認定試験 ・映像音響処理技術者認定試験								
前提知識	特になし								
使用教材	・サウンドレコーディング技術認定試験 問題集 技術資料集(JAPRS) ・映像音響処理技術者資格認定試験問題集(JPPA)								
履修上の注意	演習中心となるので検定日から逆算し自ら計画を立てて学修すること、また、疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的にいき、即時に解決するように努力すること。								
成績評価の方法	・検定可否結果…70% ・授業に取り組む姿勢…30% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス・試験構造理解
第2週	電気の基礎①(単位・デシベル・オームの法則)
第3週	電気の基礎②(抵抗・直並列・交流基礎)
第4週	電気の基礎③(波形・磁気)
第5週	規格・定数・カラーコード
第6週	音響基礎①(音の基本原理)
第7週	音響基礎②(マイク・スピーカー)
第8週	音響機器基礎(ミキサー・音声回路)
第9週	デジタル音声基礎
第10週	映像基礎①(光・色・映像信号)
第11週	映像基礎②(撮影・編集・モニター)
第12週	デジタルメディア・コンピュータ基礎
第13週	著作権基礎
第14週	総合演習(横断問題)
第15週	期末試験(筆記)
※授業の進行は学生の理解度および習得状況、ならびに映像音響処理技術者認定試験およびサウンドレコーディング技術認定試験の日程を考慮し調整する場合があります。	

科目名	ビジネススキルトレーニングⅡA				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的/概要	<p><b>【目的】</b> Officeソフトを活用した実務能力の向上を図り、実際の業務を想定した課題を通して、正確かつ効率的に業務を遂行できる力を養うとともに、AIを活用した情報整理や資料作成能力を身につける。</p> <p><b>【概要】</b> 実務を想定した業務シミュレーション形式により、ビジネス文書作成、データ処理、資料作成、コミュニケーション対応を学修する。また、各工程においてAIを活用し、文章作成、要約、分析、資料構成の効率化と品質向上を図り、成果物として提出する力を養う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス文書作成、データ処理、資料作成を通して業務を正確かつ効率的に遂行できる。</li> <li>・AIを活用して情報整理、文章作成、分析を行い、成果物の質を向上させることができる。</li> <li>・指示内容を理解し、報連相を行いながら期限内に成果物として適切に提出できる実務対応力を身につける。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	・1年次に学んだOfficeスイートの基本操作								
使用教材	・教員が準備した課題								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実務を想定した課題演習を中心に進めるため、各課題には期限を意識して取り組むこと。</li> <li>・AIを活用する際は出力結果をそのまま使用するのではなく、内容の確認・修正を行い、適切な成果物として仕上げること。</li> </ul>								
成績評価の方法	・授業への取り組む姿勢などで総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンス/業務シミュレーション形式の理解およびAI活用の基本
第2週	指示理解と資料修正業務(AIを活用した文章改善と校正)
第3週	ビジネス文書の構成理解と報告書作成(AIによる下書き作成)
第4週	実習課題①報告書作成およびAIによるブラッシュアップ
第5週	データ整理と表計算の基礎(AIを活用した関数支援)
第6週	実習課題②データ入力・集計および可視化資料作成
第7週	議事録作成の基礎と要約力(AIによる要約支援)
第8週	実習課題③模擬会議による議事録作成と改善
第9週	プレゼン資料構成とストーリー設計(AIによる構成案作成)
第10週	実習課題④PowerPoint資料作成と発表準備
第11週	ビジネスメールと報連相の基礎(AIによる文面作成)
第12週	実習課題⑤ケース別メール作成と添削
第13週	スケジュール管理と業務整理(AIによるタスク整理支援)
第14週	実習課題⑥複合業務(資料・データ・連絡)の統合対応
第15週	期末試験(実務課題提出)

科目名	ビジネススキルトレーニングⅡB				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的/概要	<p><b>【目的】</b> Officeソフトを活用した実務能力の向上を図り、実際の業務を想定した課題を通して、正確かつ効率的に業務を遂行できる力を養うとともに、AIを活用した情報整理や資料作成能力を身につける。</p> <p><b>【概要】</b> 実務を想定した業務シミュレーション形式により、ビジネス文書作成、データ処理、資料作成、コミュニケーション対応を学修する。また、各工程においてAIを活用し、文章作成、要約、分析、資料構成の効率化と品質向上を図り、成果物として提出する力を養う。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス文書作成、データ処理、資料作成を通して業務を正確かつ効率的に遂行できる。</li> <li>・AIを活用して情報整理、文章作成、分析を行い、成果物の質を向上させることができる。</li> <li>・指示内容を理解し、報連相を行いながら期限内に成果物として適切に提出できる実務対応力を身につける。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	・1年次に学んだOfficeスイートの基本操作								
使用教材	・教員が準備した課題								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実務を想定した課題演習を中心に進めるため、各課題には期限を意識して取り組むこと。</li> <li>・AIを活用する際は出力結果をそのまま使用するのではなく、内容の確認・修正を行い、適切な成果物として仕上げること。</li> </ul>								
成績評価の方法	・授業への取り組む姿勢などで総合的に評価する								

## 授業計画・授業内容

第1週	前期内容の復習と業務遂行力の再確認およびAI活用の応用
第2週	指示対応力の強化と資料作成(AIを活用した効率化)
第3週	データ分析と意思決定資料作成(AIによる分析支援)
第4週	実習課題①分析結果を用いた報告資料作成
第5週	プレゼンテーション応用と説得力向上(AIによる改善提案)
第6週	実習課題②プレゼン資料作成と発表実践
第7週	業務効率化とテンプレート作成(AIによる自動化支援)
第8週	実習課題③業務フォーマットの作成と改善
第9週	チーム業務と情報共有(AIを活用した整理と伝達)
第10週	実習課題④チームでの業務遂行と成果物作成
第11週	問題解決と業務改善(AIによるアイデア生成)
第12週	実習課題⑤ケーススタディによる課題解決
第13週	総合業務演習(複数タスクの同時対応)
第14週	実習課題⑥総合課題の完成と提出
第15週	期末試験(総合実務課題評価)

科目名	ビジネスワークショップⅡ				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的/概要	<b>【目的】</b> 時代に応じた働き方を鑑みフリーランスとして起業する際に必要なHow toをワークショップにて体験する。(2年生と合同) <b>【概要】</b> 1年生との合同グループにおいて新規の会社を起業するために必要なプロセスを疑似体験する。 ・ビジネスモデル・戦略モデル・オペレーションモデル・収益モデルを学びグループ単位に疑似会社を起こす。								
到達目標	以下のモデルを理解し、説明できる。 ・ビジネスモデル・戦略モデル・オペレーションモデル・収益モデル								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	この一冊で全部わかるビジネスモデル—基本・成功パターン・作り方が一気に学べる								
履修上の注意	学年を跨いでの演習となるので積極的に参加すること、また、その際に疑問や問題点があれば持ち越さず、質問など積極的に行い、即時に解決するように努力すること。								
成績評価の方法	・課題評価(定期考査)…80% ・授業に取り組む姿勢…20% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンスと授業目的の理解およびグループ編成
第2週	ビジネスモデルの基礎理解と代表例の学習
第3週	戦略モデルの基礎理解と競争戦略の考え方
第4週	作品制作課題①グループでのビジネスアイデア検討
第5週	オペレーションモデルの基礎理解と業務設計
第6週	作品制作課題②事業運営プロセスの整理
第7週	収益モデルの基礎理解と収益構造の考え方
第8週	作品制作課題③収益モデルの設計
第9週	5W1Hによる課題整理と起業プロセスの明確化
第10週	作品制作課題④起業プランの構築
第11週	プレゼンテーション手法の理解と資料作成
第12週	作品制作課題⑤プレゼン資料の作成
第13週	プレゼンテーション準備とリハーサル
第14週	作品制作課題⑥起業プランの発表と相互評価
第15週	期末試験(プレゼンテーション評価)

科目名	卒業研究				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2	履修学期	前期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	2
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 2年間の集大成として学んだ知識、技術を活かし「もの創り」の過程を自ら考え結果を出すことのできるスキルを身につける。</p> <p>【概要】 1. 作品制作(グループ制作)を行う。 具体的作品:ラジオ番組・音響作品・音楽作品・ステージイベント作品など</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の企画、構成内容を理解しプランニングすることができる。</li> <li>・作品の企画内容を舞台、照明、音響で具体化することができる。</li> <li>・スタッフのポジションと役割を理解し、制作をスムーズに進行できる。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	2年間学んだ専門知識を理解できている								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	・まとめ用のノートを用意すること。								
成績評価の方法	・課題評価(定期考査)…50% ・授業に取り組む姿勢…50% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	ガイダンスと卒業制作の目的および全体スケジュールの理解
第2週	作品ジャンル検討と企画立案の基礎
第3週	企画内容の具体化とコンセプト設計
第4週	実習課題①企画書作成およびグループ内検討
第5週	構成・台本・進行プランの作成
第6週	実習課題②構成案および役割分担の決定
第7週	技術プラン(音響・照明・舞台)の設計
第8週	実習課題③技術プランおよび仕込み計画作成
第9週	制作準備(素材制作・機材確認・スケジュール調整)
第10週	実習課題④制作素材および進行計画の作成
第11週	制作作業①(収録・編集・仕込み準備)
第12週	実習課題⑤中間制作物の提出と確認
第13週	制作作業②(作品ブラッシュアップ)
第14週	実習課題⑥中間発表および改善点の整理
第15週	期末試験(中間成果物提出および評価)

科目名	卒業制作				企業連携		授業方法	実習・演習	
履修年次	2	履修学期	後期	時間/週	5	総授業時間	150	単位	5
担当教員	山崎 徹		実務経験						
目的/概要	<p>【目的】 2年間の集大成として学んだ知識、技術を活かし「もの創り」の過程を自ら考え結果を出すことのできるスキルを身につける。</p> <p>【概要】 1. 作品制作(グループ制作)を行う。 具体的作品:ラジオ番組・音響作品・音楽作品・ステージイベント作品など</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の企画、構成内容を理解しプランニングすることができる。</li> <li>・作品の企画内容を舞台、照明、音響で具体化することができる。</li> <li>・スタッフのポジションと役割を理解し、制作をスムーズに進行できる。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	2年間学んだ専門知識を理解できている								
使用教材	担当者作成のプリント								
履修上の注意	・まとめ用のノートを用意すること。								
成績評価の方法	・課題評価(定期考査)…50% ・授業に取り組む姿勢…50% などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	前期の振り返りと最終制作計画の再確認
第2週	制作作業③(最終作品制作開始)
第3週	制作作業④(音響・映像・演出の具体化)
第4週	実習課題①進捗確認および課題整理
第5週	制作作業⑤(収録・編集・仕込み作業)
第6週	実習課題②中間チェックおよび修正
第7週	制作作業⑥(統合編集および演出調整)
第8週	実習課題③通し確認と改善
第9週	リハーサル準備と最終調整
第10週	実習課題④リハーサル実施と課題抽出
第11週	最終調整(技術・演出の完成度向上)
第12週	実習課題⑤最終作品の完成
第13週	卒業制作展準備(設営・運用確認)
第14週	実習課題⑥卒業制作展での作品展示・発表
第15週	期末試験(作品評価および総括)

科目名	舞台技術機器メンテナンス実習				企業連携		授業方法	講義・演習	
履修年次	2	履修学期	後期	時間/週	1	総授業時間	30	単位	1
担当教員	山崎 徹			実務経験					
目的/概要	<p>【目的】 舞台音響現場において必要不可欠な機器メンテナンス技術を習得し、機材管理・ケーブル制作・修理対応が自立して行える実践力を身につけることを目的とします。</p> <p>【概要】 本授業は実習形式で実施し、機材の棚卸作業およびケーブルメンテナンスを中心に学びます。あわせて、半田付け技術や基礎的な電気的理解を取り入れ、現場で求められるトラブル対応力と安全意識の向上を図ります。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機材の棚卸および管理手法を理解し、実践できる。</li> <li>・各種ケーブルの構造を理解し、修理・制作ができる。</li> <li>・半田付け作業を安全かつ確実に行える。</li> <li>・簡易的なトラブルシューティングが実施できる。</li> </ul>								
目標資格	特になし								
前提知識	特になし								
使用教材	・教員が準備した課題								
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習中心のため出席と積極的な参加を重視し、安全管理を徹底すること。</li> <li>・半田ごてや工具を扱うため、適切な服装で参加し、指示に従って作業すること。</li> <li>・機材は丁寧に扱い、不明点や異常があれば必ず教員に報告すること。</li> </ul>								
成績評価の方法	・課題評価(定期考査)…40%・実技課題…30%・授業に取り組む姿勢…40%などを中心に総合的に評価する。								

## 授業計画・授業内容

第1週	オリエンテーション・安全管理
第2週	機材棚卸の基礎①(分類と管理)
第3週	機材棚卸の基礎②(実践)
第4週	機材状態チェックと記録方法
第5週	ケーブル基礎①(種類と構造)
第6週	ケーブル基礎②(断線チェック)
第7週	半田付け基礎①(工具と基本動作)
第8週	半田付け基礎②(実践)
第9週	ケーブル制作①(XLRケーブル)
第10週	ケーブル制作②(TRS/TSケーブル)
第11週	ケーブル修理実習
第12週	応用メンテナンス①(トラブル対応)
第13週	応用メンテナンス②(総合実習)
第14週	試験対策・総復習
第15週	期末試験(実技)